

令和5年度第4回朝霞市子ども・子育て会議 次第

日 時：令和6年2月13日（火）
午後2時から午後4時まで
場 所：朝霞市民会館（ゆめぱれす）
会議室（梅）

・開 会

・議題1 子ども・子育て支援事業計画（令和4年度分）の評価について

・議題2 その他

・閉 会

「支援事業」評価・コメント一覧

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
5	幼児期の学校教育・保育の提供	A	A	19	3	3		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児のうちに預けたいという家庭は少なく、最低1年は育児休暇をとりたい家庭が大半である。そのニーズにあわせ1歳児の受入増を計画している事が良い。公設と民設の子供に対するケアの違いをうめられるもっと良い。 ・保育料無料になったり、預かり保育無償に伴い、しっかり受入れ人数を増やす対策を行っており、待機児童も着実に減っているため。(多分その方たちは近い遠い等、場所等で入りたい所へ入っていないだけと思われるので実質は0ということ?) ・保護者のニーズに基づくが必要量と関係することは理解できるが、乳幼児期の子どもにとっての最善の暮らし方という子ども目線のニーズも含まれた内容になることも期待したい。 ・「量の見込み」を上回る「確保の内容(実績)」が担保されており、希望に対する受け皿が確認できる。しかし、幼稚園については、「確保の内容(実績)」と実際の入園数に乖離(490人)が見られ、この点をどのように評価するのかは課題である。また、保育所においては入所者数が漸増する中で、保育の質の担保、保育士の専門性確保を同時に検討していくことも重要である。 ・待機児童の解消に向けて、保育所2施設の整備を行い、年齢による受け入れ人数の調整を図るなどの策を実施したため。しかし、待機児童がゼロになっていないため、待機児童の発生要因を分析し、ゼロになる策を実施してほしい。 ・目標に対して、実績が上回っていたから。今後も待機児童がいなくなるよう事業を進めてほしい。 ・1歳児の入園希望者数が多いため、引き続き、0歳児の入園人数を調整し、1歳児入園のニーズに応えられるようにするとよい。 ・ニーズに応じた受入定員の拡充がなされているかと思う。待機児童に関しては、具体的な取り組みにあるようにしっかりと分析をした上で対応をお願いしたい。 ・待機児童が少ないのでAにしました。 ・待機児童数が減少しており、量に対する対応は着実に進んでいると考える。 ・見込み人数や確保人数を見ると十分に確保され、実際の入所者数も入園できていると思われるので整備できている。 ・待機児童の発生要因の分析や各年齢の定員配分の見直しなど待機児童ゼロに向けて引き続きよろしく願いいたします。 ・やや待機児童の問題はあるが、おおよそ整備されている。 ・幼稚園、保育園ともに、確保の内容(目標値)を満たす実績が得られ、数字上で判断される保育事業の基盤整備が進んだとみられるため。 ・実際の入所者数との乖離が見られますが、入所者数は幼稚園、保育園ともに計画値を達成しています。待機児童数も逡減傾向にあります。 ・待機児童数が減少で推移していて成果が見られます。 ・自己評価が妥当。 ・着実に待機児童数が減っているので。 							

【B評価】

- ・待機児童解消することで初めてAの評価ができると思う。定員を確保することは大前提として、待機児童が発生している原因を特定し、もう少し具体的な課題設定をしてほしい。
- ・新たな保育所や小規模保育施設の新設を行っているが、現在も1歳児の待機児童がいると聞きます。また、保育の提供に重点を置かれ、学校教育の進捗状況や方針が見えないと思います。預かり保育の無償も、全額補助されていないと思います。
- ・確保の目標と実績をみると、実績が少なくなっている。保育士さんの労働環境改善や子どもの安全確保の観点から考えると、保育士の確保が必要であると考えられる。

【C評価】

- ・後から変更の資料をいただきましたが、一般市民にはとてもわかりにくいです。専門用語や見方などがわかりにくいです。
- ・量の見込みと確保の内容の根拠が不明で、市の現状の数値との乖離の理由が分かりづらい。待機児童は減っているものの、きょうだい同園や希望園への入所などに応えられているか不明である。保育の質の評価を行っていないことも課題である。
- ・見込みと実際の数に大きな差がある。待機児童に捕らわれ過ぎて定員割れが起きています。施設をただ増やすだけではなく、保育園に入れるのに辞退する保護者が増えている中で、その保育園の特徴をどうお客様（保護者）に伝えていくのが課題と考えます。また十分な潤沢な補助金の中で運営している民間運営者は入園予定者をただ役所からの紙一枚で待つだけでなく、役所によって積極的に募集の前線に立つ姿勢を希望いたします。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(1)	延長保育事業（時間外保育事業）	A	A	21	3	1		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数も年々増えているのでAです。しかし、説明を見ても表が見にくい。見込み実績に対し、利用者数が1万人も超えた書き方で、1日あたりの利用者数が書いてありますが、実績の人数との位が違いすぎてわかりづらいです。 ・求められている保育の必要量のニーズ把握と提供だけではなく、ソーシャルサポーターの有無などの実態と子育てをする上での支援ニーズを総合的に把握して、朝霞市のいろいろな子育て支援事業の活発な活用へと展開することも模索できないだろうか。 ・安定的な事業提供ができています。一方で、利用者の中には自己都合により安易な利用も存在することや、ここ数年、延長保育料の在り方も検討課題として取り上げられている。しかしながら、具体的に推進すべき課題が前進しているという認識はない。また、各園から延長保育時の保育者の確保及び安全管理上の課題について情報を収集・把握し、延長保育の質についても継続的な検討が重要である。 ・確保の内容（目標）を達成したため。延長保育の時間が保育園や保育施設により異なっているが、それが保護者のニーズに込えているかどうかを進捗管理シートに記載をしてほしい。⇒資料1-2参照 ・育児保育児童も保育時間を延長できるとよい（フルタイム勤務の保護者に対応するため）。 ・延長保育については、夫婦共働きがスタンダードになりつつあるため、今後も需要は増加する傾向にあると思われる。量の見込みを次回増やしつつ、確保も増加させていく必要性が考えられる。 ・朝霞は都内に仕事に出る人が多く、PM7時まで無料で預けられるのはとても良い。ただ、それでも時短にせざるを得ない場合や希望の園に入れなかった場合が発生するが、保育士の負担も考えると今がベストだと思う。 ・現在の子育て家庭の生活実態に沿った必要量に対する適切な体制となっていると考える。 ・全園にて延長保育を実施することができたことは大いに評価できる。 ・全園にて延長保育を実施し、19時や20時まで時間延長をしていることもあり、これ以上できることはない、難しいと考えるから。 ・成果が得られている。 ・共働き世帯は増えていると思います。働き方改革が進む中まだ遅い時間の帰宅者が多いので、保育園時間の延長継続を、お願いします。 ・確保の内容（目標値）を満たす実績が得られ、延長保育の充実が進んだとみられるため。 ・全園の延長保育実施を継続し、確保人数の目標をクリアしています。 ・全園にて延長保育が実施され保育時間のニーズに込えています。延長保育を実施できるだけのスタッフが確保されたものと推察します。 ・全ての施設で延長保育を対応できている。 ・自己評価が妥当。 ・共働きのニーズに込えて延長保育が適切に実施されていることを大変評価いたします。 ・働き方の多様性を尊重していると感じたため。今後賃金が上がらず物価が上昇し続けると、ダブルワークを考える人も増えると思うのでニーズはさらに高まると思う。 							

【B評価】

- ・職員体制は整っているのか把握していますか？ということからBにしました。
- ・保育園の延長は以前から取り組んでいたと思います。私も子どもが保育園を利用していた時は、早朝や延長を利用していました。
- ・延長保育の充実は図られているが、子育て支援事業の充実のために、子どもの長時間保育による弊害などはないのでしょうか。別の子育て支援のやり方があると考えます。

【C評価】

- ・量の見込みと確保の内容の根拠が不明で、市の現状と指摘が異なっているため評価できない。全園で延長保育ができていますが、午後8時までの延長のニーズ把握と充足率が把握されていないので評価できない。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
6-(2)	放課後児童クラブ	B	B	A 3	B 21	C 1	D	他
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実績、進捗をみる限り、今後の課題設定や方向性がある程度理にかなっているように思えるから。方向性が具体的でわかりやすい。 ・入所保留者数は減少し民間クラブ1か所の新規開所などで14人の枠を確保できたので、成果があったものと評価します。 ・入所保留児童の解消には至っていないとありますが、必要に応じた確保、拡充がなされていると思う。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業所の参入等での対応を掲げているが、質向上についての取り組みはどのようになっているのだろうか。⇒資料1-2参照 ・民間の施設（地域）に偏りがあると思います。 ・放課後児童クラブの受入れを多くするというより、ランドセルのまま放課後学校にいられる制度が必要だと思います。正直、学童は子供本人からも「つまらない、好きなことができない」など聞きます。でも学校内、例えば図書室と校庭などの開放があれば定員内で受け入れ可能と思う。 ・Bで良いと思います。校区によってバラつきがあるので、人数分は確保できているのに待機がいるのは残念ですが仕方ないです。子どもが増えそうな所、待機が多い所へ作っていただけたら嬉しいです。 ・利用量に対する体制づくりの努力をしているが、必要とする地域への提供、前年度に比べると入所者数は増加しているが、入所保留数の改善が少ないため。 ・令和4年度実績を見ると、「量の見込み」を「確保の内容」が下回っている。民間クラブの誘致も進めているが、保留者解消には至っていない。学区によるバラつきもあるようだが、需要と供給の調査に基づく、計画的配置を継続して進めていく必要がある。なお、入所保留は、低学年の課題なのか、高学年の課題なのか。一方で、受け入れに伴うクラブ内の在り方（過ごし方）について、発達段階や安全性を含め継続的な取り組みの振り返りも必要である。 							

- ・新規開所や小学校の教室を借用して、定員を増やしたが、入所保留者が多いため。学区による需要のばらつきがわかる表を作成してほしい。また、需要のばらつきを解消する方策を実施してほしい。
- ・入所者数は増えたが、入所保留者数の解消には至っていないため。
- ・地域にはばらつきがある。
- ・現在、自分の子どもも学童を利用している。各学童によってルールや内容などに変化があるので、違いがいろいろ分かりやすくなると良い。
- ・子育て住宅やマンション建設が増えると比例して児童なども増える傾向なので、さらに増設の検討をお願いいたします。
- ・新座市のような子どもの放課後居場所づくり事業などを取り入れてはいかがでしょうか。すでに実施されているのであれば何よりです。
- ・地域により解消されていない。
- ・入所保留者が出ないよう、既存のクラブの定員見直しを継続してもらいたい。
- ・保留者数がまだ多くいるため。長期休暇のみの利用できる民間学童があると助かる。

- ・確保の内容（目標値）を達成できていないことからすると、評価は妥当と考えます。一方で、待機児童解消のために保育の場の確保を急ぐあまり、保育の質の確保や施設の大規模化も課題として認識する必要があると感じます。
- ・利用者の見込み数に対して施設確保数の目標が下回る状況が解消されず、かつ実績も計画値を達成出来ませんでした。また学区のニーズと定員数のミスマッチも継続しており、入所保留者数削減の早急な改善策が求められます。
- ・自己評価が妥当。
- ・民間クラブが増えていることには評価いたします。カリキュラムは実際体験しましたが、民間のほうが充実しているように感じました。また、公設クラブの職員の給与が低いのも改善の余地があると感じています。
- ・どの地域に入所保留者がいるのか、今後新しいマンションなど建設予定があれば、入所希望が増えると思われるので、そのような計画があるかなど、丁寧に調査し、民間クラブを設置する必要がある。

【C評価】

- ・障害のある子や配慮を要する子のための加配職員が不足している。人員確保が出来ずに派遣職員を雇用しているが、できる限り直接雇用で確保すべきである。量の確保だけでなく、保育の質を高めることが必要であるが、評価していない。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(3)	子育て短期支援事業（ショートステイ事業）	A	A	20	5			
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里親家庭が5世帯から9世帯に増えたため。9世帯と委託契約を締結し、実績が6世帯ということは、委託里親が足りなくて保護者のニーズに応えられなかったことはないのではないかと推測したため。保護者のニーズに応えているかどうかを進捗管理シートに記載してほしい。⇒資料1-2参照 ・令和3年58人／年に対し、令和4年95人／年となっており、コロナ禍が次第に解消しつつある状況の中で、着実に事業は展開されている印象を受ける。また、延べ人数36人の具体的内容が今ひとつ把握できないのだが、同じ里親宅に同じ利用者が複数回利用し、結果として95人の実績となるのだろうか。その点、確認できればと思う。なお、待機児童等の他市との比較はあるが、こうしたショートステイ事業の比較はあるのだろうか。⇒資料1-2参照 ・ニーズがどれだけあるのかわかりにくい事業ではあるが、報告をみる限りではニーズに応えられていると考える。また、今後は広報に力を入れるということが合理的である。 ・知られていないことも多く、周知が大切。 ・里親数が目標値を1世帯上回り、延べ36人の利用があり活動が実っていると評価します。今後は認知活動が必要と思われます。 ・里親数が増えているので（委託里親）。 ・朝霞市の社会資源を生かした事業となっている。子どもの利益に立って、養育に対するSOSの声を上げやすい、また、どこに挙げていくのが当事者にとってわかりやすい仕組み作りが適切な利用につながるだろうと考える。また、里親制度の普及と委託里親の確保は継続的な課題と考える。 ・委託里親を増やす努力も実り、目標を実績が上回っていたから。 ・令和4年度は見込みを上回る実績があり、確実に進捗していると思います。引き続き広報活動を続けてほしい。 ・確保の内容（目標値）を満たす実績が得られ、児童の一時的な養育環境が確保されたとみられるため。 ・目標とする世帯数を実績が上回り、受け入れ日数が計画値を超えています。今後はさらに里親制度の広報活動の強化策に注目いたします。 ・現状の事業の継続をお願いします。里親家庭が増えることを望みます。 ・里親の確保が大変難しい事業だと推測いたします。内容や数字よりも事業をしっかり継続している点ではとっっても評価いたします。 ・里親について、市民に啓蒙する機会を作ったりして、広くPRできていたと思われるため。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の場へ行かない人からすると、パネル等を目にすることがないので、周知が全市民にされていないと思う。 ・ショートステイを利用するにも、いろいろと手続きがあり忙しい人たちにとっては、それに時間を作ることも大変である（しかも平日で土日があれば少し違う）。 ・まだまだ子育て短期支援事業の周知がいきと届いていない感じがします。広報啓発の仕方を検討されてもいいかと思います。 ・委託里親が増えていることは認めるが、ニーズの把握の努力がさらに必要である。保護者がダブルワークや夜間の仕事をしている場合など、夜間に子どもを保育する仕組みとともにショートステイのあり方を考える必要がある。 ・認知度が低く広報活動にもう少し力を入れたほうが良いと感じた。里親に預けるイメージができない親が多いのではないだろうか。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(4)	乳児家庭全戸訪問事業	A	A	22	3			
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全戸訪問を行っていることは評価できると思う。その中に、日本語が話せない外国の方に対して、同じようなケアが提供されているのかは不明なため、今後確認したい。⇒資料1-2参照 とても助かる事業だと思います。家の中で助かる方はもちろんいますし、お家の中を訪問する方が見るのも大切ですが、(環境等)家を嫌がる方もいそうですね。 平成28~30年の訪問率80%を勘案すると、令和元年以降90%を上回る訪問実績があり、令和4年は過去最高となっている。本事業の着実な展開が見て取れる。訪問の実際として、対象児が入院中や里帰り中で会えない場合があるようだが、事前にアポイントメントをとり、養育に課題があるようであれば、早期に書く部局と連携をとれる体制を整えることが肝要である。近年の児童福祉における様々な課題を勘案すると、「100%の状況把握」を大きな目標に掲げて取り組んでいただきたい。なお、乳児と保護者の把握不能、又は、再訪問しても会うことができない(拒否がある)場合、健康づくり課のみならず、関連部署と連携をとり、状況把握に努める必要がある。 訪問率実績が92.0%から99.1%に高まったため。訪問できなかった家庭の理由一覧を作成してほしい。課題がありそうな家庭がある場合は期限が過ぎても訪問してほしい。 不在宅など、ほぼではなく全家庭の訪問をしっかり行ってほしい。 里帰りや不在の課題があるが、外出も中々できない赤ちゃんとお母さんにとって、とてもありがたい事業だと思います。最近、物騒な事件もあったので訪問の仕方や防犯面に今後は注意が必要だと思います。 令和4年度の99.1%となっており、現場の保健師さんの努力・苦労が数字に表れていると思います。連絡を取るのも大変だと思うので、LINEなどのICTを活用し、業務を減らせると良いと思う。 訪問率は前年を上回り、ほぼ達成されています。未連絡の不在家庭の状況把握は重要ですので、児相等との連携やLINEの活用など連絡方法を工夫することで早期に改善しましょう。 訪問してもらい安心したという声を聞いているので。 参加人数も増え、周知もできているが100%であるべき。また、1回だけではなく、3歳で保育園や幼稚園に入園するまで半年に1回アフターケアをしていく大切な事業だと思う。 訪問率100%であるが、当事者と接触できる確率が100%になることは難しいだろう。子どもの様子や暮らしの様子を目視することは非常に大切なことであると考えます。結果的には全子育て家庭とのコンタクトが早期に成り立つことを期待している。要支援家庭の早期発見が社会的養育への歩みを踏みとどまらせるのではないかと期待しているためである。 全ての乳児がいる家庭を100%訪問し、実績も99.1%と評価できる。今後も支援を継続してほしい。 訪問率が高い。100%まで着実に進んでいる。 入院中や里帰りが事実なのかも含め100%訪問できるよう引き続きよろしく願いいたします。 訪問率の実績が高く取り組んでいることから、評価は妥当と考えます。新生児親子にとって大変重要な接点になりますので、引き続きの訪問活動をお願いします。 全戸訪問は大変な労力かと思いますが、それを実施されたことは評価に値します。地道な活動ですが継続されることを期待します。 とても高い達成度で評価できると考える。 実質100%は難しい(受ける側の事情)と思いますし、その後においても対応ができているかと思っています。 							

- ・自己評価が妥当。
- ・素晴らしい事業であり、適切で欠かせない事業だと考えます。子育ては孤立で社会から取り残されたような危機感を覚えますが、訪問をすることによって社会との繋がりを実感し安心を生み出すでしょう。
- ・訪問実績が着実に伸びているため。

【B評価】

- ・入院中や里帰り中などの不在でも何度も訪問する等して100%になるようにすべき。
- ・訪問することは状態も確認できるのでいいと思うが、知らない人が家に来ることに抵抗がある人もいるので、気をつけたほうがいい部分もある。
- ・乳児家庭の全戸訪問としては実施できているものの、現状確認と簡単なアドバイスにとどまっており、産後ケアとしては不十分である。また、産前から産後を見据えて支援プランを作成し、切れ目なく親子を見守る体制が必要である。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(5)	養育支援訪問事業及び要保護児童支援事業	A	A	20	3	2		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状で足りているのであればよいが、日数はもっとあってもよいのではないか。1Weekに1回のTELでもいいのですなど、訪問のペースが表からだとよくわからなかった。 令和3年4月1日、令和4年5月2日と、コロナ対応が一定の落ち着きを見せる中、事業が確実に展開されている印象を受ける。しかし、「量の見込み」「確保の内容」が20日で実績52日と倍以上の開き勘案すると、計画そのものの見直しや体制の整備も必要ではないか。 支援のニーズに対して支援が行われたと推測したため。子どもの養育に支援が必要な家庭の把握の方法としてどのようなことがあるのかを進捗管理シートに記載してほしい。⇒資料1-2参照 孤独や子どもの養育に課題がある家庭のサインを見逃さないハードルの低い相談窓口設置をお願いいたします。 養育支援の周知をもう少しするとよい。 各家庭内の問題に立ち入る事業なので、関わり方にはとても配慮が必要です。また専門性も求められるので、支援員さんの拡充と関係機関との連携フォローが大切だと思います。 計画する訪問日数を実績が上回っています。引き続き児相等と連携して、要支援家庭及び要保護児童の把握に努めて頂きたいと思います。 事業としては、実績数を見るとA評価で妥当かと思います。課題にあるように、支援を要する家庭の把握、手を上げる事のできる環境づくりをお願いしたい。 支援内容など評価できると思う。とても大変な内容だと思われ、見込みに対し、実績が増えてきているので支援員の拡充を考えた方がよいのではないかと考える。 着実に進捗していると思います。 必要としている家族を把握するのが難しそうです。続けていただくとありがたい事業だと思いました。 見込み以上に実績がありほぼ進捗していると考えます。 養育支援利用者、利用日数も増えている。今後も支援を要する家庭の把握と利用の促進に期待する。 対応を要する案件が多いことは心配されていますが、確保の内容（目標値）を上回る実績があることから、評価は妥当と考えます。 児童、保護者共に様々な障害、貧困が増えてきている中でとても重要な事業だと考えます。これもまた、数字よりも継続的にすすめていただいていることに感謝いたします。 子育て世代包括支援センターと連携して、状況把握に努めているため <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用の促進をするのであれば、周知の方法を考えて育児家庭でなくても周知をして周りの人達も声を掛けられる環境があると良い。 養育支援利用日数52日は見込を大きく上回っていますが、前年度の実績41日に対して量の見込20日の設定が妥当なのか疑問に思いました。 <p>【C評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者5人だけであり、必要としている家庭の把握が必要である。要保護児童対策地域協議会で利用が検討される家庭だけではなく、頼れる実家が近くにいない家庭や、友人がいない家庭など、孤立している家庭にアプローチする必要がある。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(6)	地域子育て支援拠点事業	A	A	16	9			
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は9か所なのに8か所のままなのは足りている方という事でしょうか。それとも開設できる場所がないからなののでしょうか。ずっと9か所にしておくのはなぜなのでしょう。目標は高めのほうが良いという事ですか。⇒資料1-2参照 ・今後はお客様の新規開拓や、より多くの方への認知を各保育園がどう努力されているのかを伺ってみたいです。潤沢な補助金の中で役所頼りにならずに各施設がどう進めているのか？⇒資料1-2参照 ・量的な提供はされていると考えました。子どもと子育て家庭の2つの視点に沿った支援ニーズと施設利用者の利用満足度等の継続的な把握を通じた事業の評価と展開、開発となっているか疑問である。また、施設間格差がないよう取り組みを必要としているとあり、改善されるものと期待している。 ・コロナ禍を経て1日あたりの利用者数（206人）が徐々に回復傾向にある。今後も保護者が知り合え、相談できる機会を増やしてほしい。 ・子育て家庭が様々な行事や相談が出来る施設がある事は素晴らしいと思うが、もう少し施設数を増やしてくれると良いと思う。 ・朝霞市内に適材適所に支援拠点があり、とても充実していると思います。延べ利用者数もコロナ5類移行に伴い増加するのではないのでしょうか。 ・子育てに不安を感じる方がいれば、児童発達支援センターも活用してもらいたい。 ・令和2年以降、利用者数の実績は、新型コロナウイルスの影響を反映し、利用者の見込み数を大幅に下回っていますが、令和5年度以降は影響が緩和されますので、利用者数の増加に対応できる様、早急に施設数を9か所に戻す手当てが必要です。 ・量の見込み370人/日に対し、利用者数206人/日となっていて、数値的には問題がないように見える。 ・参加人数も周知もできている。 ・イベントの告知や支援センターの情報など、よく目にするようになったので、肌で感じる事ができています。 ・年齢を限定したイベントは素晴らしいアイデアだと思います。 ・年齢を限定したイベントを実施したことが良い機会を生み出したようで、ニーズに合った活動をされたと評価します。 ・利用者数だけでなく、イベントの開催方法なども変えて実施しているところを評価します。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターによって内容にバラつきがありすぎる。 ・「量の見込み」が令和2年以降370人/日となっているが、利用者実績は200人前後である。令和2年の1施設閉所や年齢制限イベントなどの影響によって、利用実績が低く抑えられているようだが、令和元年以前の利用を考慮すると、本事業の周知方法や魅力的なイベント内容の設定など課題の検討が必要ではないか。 ・確保の内容（目標）が9か所であるのに対し、実績は8か所であるから。地域によって行きづらいところがないか検討し、1か所の設置をしてほしい。 ・小さい子どもの発達に不安を抱える人も多い。心理さんや病理の先生などもあるなら、小さい頃から自閉やADHDの様子があるなどのアドバイスを受けると早く家庭でも対応できる。「様子を見ましょう」が多い。 							

- ・利用のしやすさを考え、徒歩などでも行ける地域にセンターがあると良い。子育て不安を少しでもなくすため行きやすさが大切。
- ・コロナ禍による影響がある中でも、前年より利用者数が増えたことは評価できる。一方、地域子育て支援拠点の確保の内容（目標）が3年にわたり未達であることを踏まえ、B評価と考えます。
- ・相談を受けた際に、より専門性の高い支援にどのように繋いでいるのかが見えない。また、保護者同士のかかわりや関係性を深めるサポートをするための職員研修が必要である。
- ・利用者数だけでは計れない各センターが担っている役割を把握し、相談や支援が必要な親御さんが必要な時に対応できるよう、全体の質の向上も必要だと感じる。他機関と連携することを公式な形でできるよう整えるべき。
- ・職員の研修にもっと力を入れたほうが良いと思ったため。私自身、子育て支援センターに言った際、常連の方と職員がずっと話していて、より孤独を感じて帰ったことが何度かあったため。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(7)-①	一時預かり事業 (幼稚園)	A	A	A 20	B 5	C	D	他
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確保の内容（実績）が利用者数よりも多いため、保護者のニーズに応えていると推測できるため。預かり保育の時間が保護者のニーズに 応えているかどうかを進捗管理シートに記載してほしい。⇒資料1-2参照 ・課題は預かり保育担当職員の人材確保と人件費でしょうか。 ・進捗している。 ・預けたいときに「いっぱいです」と言われたら悲しいので助かります。 ・市内幼稚園の理解を得ながら取り組みが進んでいると考える。 ・補助金を交付することにより幼稚園市内全8園にて預かり保育事業を実施することができたため。 ・幼稚園での預かり保育の認識が高まっていると感じるため。 ・確保されていると思う。 ・確保の内容（目標値）を満たす実績が得られ、一時預かり事業の確保が進んだとみられるため。 ・市内全8園で実施され、利用者枠、利用者実績も計画通りに推移しています。 ・市内全8園で預かり保育事業が実施され偏りなく保護者を支援できたと評価します。 ・現時点では着実に進捗しているものと考えます。ただ、今後においても需要は拡大していくかとも思います。 ・自己評価が妥当。 ・着実に進捗していると思います。素晴らしい事業なので更なる周知をしてほしいと願っています。 ・対象が幼稚園の在園児ということなので、一時預かりをしている園に希望が集中するのではないか。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者をすべて受け入れることができている状況を整備している。しかし、「量の見込み」「確保の内容」が400人/日となってい るが、過去5年間、利用者は大きく下回っている状況にある。その原因（課題）について検討することが必要ではないか。 ・幼稚園の預かり事業などもっと幼稚園にピックアップしてほしい。幼稚園代表で参加しているが保育園のことばかりで参加する意味は あるのか。 ・他市などで成功している、潤っているところを訪問視察もいいと思う。 ・預かり保育のニーズやその背景にある家庭の状況を把握する必要がある。保育所の入所ではなく、預かり保育を選択している背景を明ら かにし、家庭が必要としている子育て支援策を検討する必要がある。 ・補助金交付園を増やすべく、基準の見直しの検討をする必要があると感じられたため。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(7)-②	一時預かり事業 (保育園等)	B	B	3	21	1		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の保育業界の核となり得る事業だと考えます。潤沢な補助金を得ている民営でどこまで広げられるかが鍵と考えます。 お子さんの成育状況や身体的精神的フォローなど課題はあると思いますが、子育てのセーフティネットとして大切な事業だと思います。 仕組み作り、周知方法などの改善をお願いします。その中でも実際に利用されている方も多くいるので、その点を評価します。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園に通わせていない子供も預けられる制度？⇒資料1-2参照 ファミサポ事業が進んでいないように思えるため。 「自己評価の理由」を読んでもBで良いと思います。 令和3年度事業報告を確認したところ、事業内容が正しく周知されていないということが課題として挙がっていた。この点について、改善が見られなかったという部署の評価が書かれていたため。 令和2年以降「量の見込み」「確保の内容（実績）」は70人/日である。令和3年に比べ令和4年は10人/日で1日当たりの利用者数（合計）は増加したが、乖離は大きい。制度の分かり難さや、利用者の使いやすい仕組みが課題のようだ。 もっとニーズがあると思うが、利用者が少ないため。制度がわかりにくいというのは、どういった点がわかりにくいのか、また、利用しにくい点は何かを進捗管理シートに記載してほしい。⇒資料1-2参照 1日あたりの利用者数が見込みより少ないため、もっと制度をわかりやすく周知してほしい。 利用を検討したことがある身としては、自己評価同様制度がわかりづらく利用をためらいやすいと感じるから。これからの進捗に期待。 事業の周知を進める必要があると思う。 現実には、ファミサポも保育園預かりも登録申請をして手続きを踏んでとても時間がかかって、今すぐ預けたい人にはすごく不便です。簡単にできるようにしたい。 預かり保育を体験してもらいながら相談サポートなど引き続きよろしく願いいたします。 利用のしやすさ、周知をしっかり行う。 確保の内容（目標値）どおりの実績が確保できていることは評価に値する。一方、1日当たり受け入れ可能数と実際の利用者数に大幅な開きがあることの要因に課題があると思われるため、B評価は妥当と考えます。 予約を2か月前にしなければならず、利用のハードルが高い。 利用者枠、利用者実績とも計画通り推移していますが、利用者から制度の分かりにくさの指摘があるとのことですので、広報の方法も含め更なる改善が期待されます。 制度がわかりにくいという指摘は、わかりやすい制度であれば利用者が増えると思うので、制度の見直しや周知を進めて頂きたいです。 自己評価が妥当利用方法の統一と周知は必要。 ニーズに応じきれていないため。事前面談や当日の荷物など、緩和して利用しやすくなると良い。スマホで申請や利用ができれば尚良い。 制度の周知が必要と考える。 							

- ・泊りで預かれる制度がないので、新しく始めてほしい。
- ・ファミサポのサポートしている方に対するケアがどうなっているのか？緊急時にサポートしている方に負担がいきがちなようなので、事故が起こる前に、もう少しサポートの体制を整えてほしいかなと思います。

【C評価】

- ・保育所の一時預かり保育を断った件数を記録していないため、ニーズの把握と充足が確認できていない。確保の方策としてファミリー・サポート・センター事業でも預かりが可能であるとされているが、他の事業と合わせてニーズに対応しているということは、本事業だけでは一時預かりのニーズに対応できていないと考えられる。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(8)	病児保育事業	B	B	3	18	4		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の登録などがありますが、進んでいると思います。 ・乳幼児、児童の急な発熱発病は必ず起こりうるもの。医師常駐の病児保育事業は育児中の家庭にとってとても助かる事業だと思います。利用しやすさの工夫が必要だと思います。 ・周知方法の改善をお願いします。その中でも実際に利用されている方も多くいるので、その点を評価します。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価は理由を見てよいと思います。令和3年から令和4年で登録者数が減っているのが気になりました。 ・子育てと生活、仕事の両立を考えていっても、そのバランスをもって生活を継続することが難しいからもあるだろう。利用ニーズは一定程度あるだろうと考える。本当に必要とする方の支援になるよう情報の周知徹底を望む。 ・事前の登録が必要であることを知らず、利用できなかった保護者がいるため。周知の方法として、普段通園している保育園で、制度を周知するとよいのではないか。 ・利用者が制度を理解し、利用しやすい事業にしてほしい。 ・病児保育についての情報が少ないから。自己評価相応と考える。 ・事業の周知が必要だと思う。 ・やはり急な病気などではじめてわかる人も沢山いると思うので、万が一に備えて日頃から関心をもってもらい事前登録数を増やす。 ・制度の周知が不足している。 ・確保の内容（目標値）に対する実績は確保されているものの、想定したように利用されていない。いざという時に利用ができるように、平時からの周知啓発に課題があると思われるため、B評価は妥当と考えます。 ・登録をしていないと利用できないのに、登録者数が増えていないということは市民のニーズと合致していないように思う。 ・病児保育事業は予測不可能で緊急性が高いため、事前登録については柔軟に対応すべきであると考えます。また、今後も起こりうる新型感染症発生時の対応について、今回の経験を踏まえ、ニーズの把握に努めて頂きたいと思います。 ・急な病気により保育が必要となることに対して事前登録が必要という、利用しづらい制度と見受けられたので改善していただきたいです。 ・市内に1か所しかなく、当日朝の発熱では預けられないことなど、預ける際のハードルが高い。保護者の病児保育に対する考えやニーズ把握を行い、利用しやすいものにする必要がある。 ・ニーズは現状もっとあると考えるが、周知がされていないと思われる。 ・自己評価が妥当。 ・認知度が低く、利用したくてもできない人が多くいるため。 ・せっかくの制度なので、健診などでも周知して、事前に登録して活用できると良いと思う。 							

【C評価】

- ・他市では保育園に併設している病児保育が多く存在している。朝霞でも看護師を週1ではなく毎日置き、病児の受入れもある程度可能にする必要があるが、一方で子供本人の負担も考えると難しい部分である。
- ・平成30年より「医療機関併設型」の病児保育室が開室された。令和元年の利用者26人／月に対し、令和4年5人／月、令和3年4人／月となっており大幅に減っている。また「量の見込み」と「確保の内容（実績）」を考えると大きな乖離がある。制度の周知をはじめ、根本的な対応を考えるべきではないか。
- ・病児保育をしている場所が少なすぎる。病児の手続きや申請書類も多く、すぐ利用できないことも不便。子育て支援されていない。
- ・知らないご家庭が多いようです。更なる周知が必要と感じます。

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(9)	ファミリー・サポート・センター事業	A	A	15	8	2		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年は前年に比べ、会員数（依頼会員／提供会員）が増加し、利用人数も着実に増加している。ファミリー会員からサポート会員へと変わっていただけた循環ができることが望ましい。サポート会員の援助の質向上に向けた研修を組織することも望まれる。 9人枠の核を目標とし、10人分の枠を確保できたため。子どもを預けたい人の要望に十分に対応できなかったのはどのような場合かを進捗管理シートに記載してほしい。サポート会員を増やすとともに、サポート会員の講習会には引き続き力を入れていただきたい。 サポート会員を増やすため、多く周知が必要。 ファミリーサポートの認知が高まっていると思います。丁寧な対応をしてくださる方が多くとてもありがたい事業だと思います。少しのトラブルでイメージダウンすることがあるので、ファミサポさんの手厚い講習をお願いします。 サポート会員について依頼会員数、提供会員数ともに経過通り推移しています。今後も更なる広報活動と講習会の実施の強化を願います。 活動自体は成長しているようで評価をします。サポート会員や、この制度自体を近隣4市で、共同で実施することでサポート会員の確保にもつながるように思います。 初めて知った事業でした。会員様が年ごとに増えていて、ありがたいと感じました。この事業があると知らない方が多いと思います。 利用人数が年々増える中で、サポート会員を増やすことが大切でカギになっていると考える。その点、取り組みが理にかなっているから。 確保の内容（目標値）を満たす実績が得られ、ファミリー・サポート・センターの利用が進んだとみられるため。 以前サポート会員として活動した経験から、順調に機能し、成果を得ていると考える。 ・着実に会員の増加が見られるため。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> サポート会員が少なく、利用者の方がなかなか利用できていない。 もっと多くサポーターになりたい人々を受入れできるよう、説明会や講習会を増やすと良い。 量および質における需要と供給のバランスある体制を期待している。 サポート会員を増やす為に周知方法をホームページや紙だけにせず、実際に目で見て周知してもらう方法も必要だと思う。 利用したい人とファミリーサポート会員のバランスが整っているのだろうか。また、ファミサポを使うまでの道のりがすごく大変である。 必要な時に利用できないことが多く話を聞く。障害や特性のあるお子さんの預かりに支援センターなどを利用した場合、場の提供だけではなく、フォローも必要になるため公式な連記が必要。サポート会員の研修法等の検討が必要。 サポート会員が不足しているため。時間帯や多胎児など多くのニーズにこたえられる様、サポート会員の充実が必要。 この進捗シートには書かれていないが、サポート会員への日々のケアが不足していると考えられる。対応困難なご家庭に当たった時の相談の体制や一人ひとりの提供会員へのサポートが急務だと考えられる。 <p>【C評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポートはサポート会員の不足と共に、サポート会員へのフォローがあまりにも少ない。預かり時のヒヤリハット事例の共有と対応研修を行ったり、ファミリーサポートから専門的な支援につないだり、より機能する制度にする必要がある。 とても難しい事業だと思います。会員数が少ないのが現状で相互の活動ができていないように感じました。ただ事業として、評価しなければなりませんので、今回はCと評価いたします。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(10)	妊婦健康診査	A	A	22	3			
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の健康管理は重要である。妊娠期間中の健康面での支援を受けた体験・経験が、その後の子育て支援にもつながっているというメッセージが伝わっていくことを願う。 ・着実に成果を残している。妊婦健康診査を受診しないでの出産する事例があるようだが、そのフォローアップはできているだろうか。他機関との有機的な連携が重要である。 ・勉強不足で制度の詳細は分かりかねますが、補助によって審査を受けられる妊婦さんが多いようで評価します。産婦人科でかかる費用を一律にできたら、妊婦さんが少し離れた費用の安い病院まで通わなくて済むのかなと安易ですが思います。 ・問題ないと思いました。 ・受診率が97%を目標とし、99%であったため。令和5年度には産後1か月の健診についても費用助成を行うとのこと、とてもよい。 ・受診者数に対して受診率99%の実績があるため。 ・実績99%で十分と考える。産後一か月の産婦健診助成も期待している。 ・色々改善はあると思うが、私の周りの妊婦さんなどからは満足の評価が高いです。 ・進捗している。 ・確保の内容（目標値）に対して99%の実績があり、妊婦健康診査が着実に行われていることから、評価は妥当と考えます。 ・実績が99%は素晴らしいと思います。 ・受診者数の計画は実績を満たして推移しています。今後も周知徹底を強化するための工夫を願います。 ・現状の事業を引き続きお願いします。 ・対象者がほぼ全員というくらい受診しています。安心安全な妊娠、出産に対して健康管理の向上を促進していると思います。 ・今後も引き続き必要な事業であると感じたため。 ・未受診の妊婦さんへのケアが不明だが、概ね健診できている。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から緩やかな減少が見られるので、理由が気になります。とてもありがたい事業ですが、育児のしやすい朝霞を目指すのであれば、更なる充実が必要なのではないでしょうか。 ・多胎児の妊娠や妊娠中の病気など、健診回数が増える場合の支援も検討する必要がある。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(11)	利用者支援事業	A	A	A 17	B 7	C 1	D	他
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届出数に対し面談数はほぼ達成していますが、課題認識にある利便性の向上（北朝霞訪問の設置等）を早急にお示しいただきたいと思ひます。⇒資料1-2参照 ・市内に2か所出来たらよいと思ひますが、母子の支援は進捗していると思ひます。 ・着実に成果を残している。妊娠届出をした妊婦全員への面接に向け、包括センターの複数設置に向け、検討を進める必要がある。 ・事業の見込みがセンターの施設数になっているが、面談実施率を目標としたほうがよいと思ひ。「産後の新生児訪問」は、6（4）乳児家庭全戸訪問事業とどのように連携しているのかを進捗管理シートに記載してほしい。⇒資料1-2参照 ・1か所のセンターで妊婦との面談数1,163人は評価できる。ぜひもう一カ所設置を。 ・土日の開所を増やすと行きやすい。 ・面談実績からすると、Aが妥当であると思ひます。「面談＝対面」ではなく、非対面での面談を検討してもいいのでは。 ・相談や情報提供、アドバイス等を行いすべての妊娠に対して子育てのサポートがされています。北朝霞方面にあるととてもいいですね。 ・課題に対しての取り組みも明確で良いと思ひます。 ・評価するための基準が捉えられず、部署の評価に沿うことにした。事業内容としては推定した必要量と支援ニーズとしての必要量と質を踏まえて評価したい。 ・実績が高いから。事業内容や課題も具体的。 ・確保の内容（施設数）の目標を満たしていることから、評価は妥当と思ひます。 ・約96%の面談数は活動が効果的に実施されているものとして評価します。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6-（4）ともつながるが、訪問という形で対応する面と、いつでも相談に来てOKという場を1か所ではなく複数つくる必要があると思ひ思う。 ・土日の交付も増やすと行きやすいと思ひ思う。 ・妊婦さんは体調もそうですし、兄弟などいるとさらに移動が大変なので、小さくても設置数が多いほうが助かると思ひますのでご検討よろしくお願ひいたします。 ・北朝霞方面に子育て世代包括支援センターがないとのことで、13万6千人の市に1か所しかないのは不便だと思ひます。 ・課題にもある通り、1か所では対応が難しいと感じられるため。 ・産後、子育てについて育児相談したいときに2回まで利用可能で1回800円とるのは無料にならないのか？ということでB。 <p>【C評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産前産後ケアとして実施している事業が脆弱であるため、具体的な支援策が取れていない。特定妊婦を把握、支援することはある程度できているが、より幅広い家庭に機能する支援プランを作成し、実際に支援を行って困難を防ぐ対応ができていない。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(12)	実費徴収に係る補足給付を行う事業	B	B	4	17	4		
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 副食費補助の上限が上げられたとのことで、拡充が進んでいると思います。知らない方も多いので、引き続き告知方法を検討してはいかがでしょうか。 対象者数に対して申請者数が少なかったことは課題と思うが、申請者数が増加したことは、事業がより認知された結果として評価する。 対象者に対して、案内を配布しているとのこと。必要な方は申請をしてくれていると考えます。 申請者が少なかったのは市民各自の問題だと思うので、市は役割を行っていると思います。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての取り組み予定の内容がとても良いと思いました。 「量の見込み」と実績が大きく乖離している。補助申請に課題があるようなので、有効に補助が行える申請方法を工夫する必要がある。 対象者に対して、申請者が少なかったため。令和5年度以降の具体的取り組みに書かれている取り組みでもよいが、対象者を市が把握しているのであれば、直接、対象者へ申請書を送るといった方法も検討してほしい。 対象者に対して、申請者が少なかったため。 ほぼ進捗していると思う。 給食費の免除をすることが良い方向に進んでいけばいいが、病院も給食費も支払いがなくなっていくと、保護者側の意識が薄れていきそうで心配。 園を通さずに申請手続きができるようにしてあげること。月額上限をあげ補助件数を増やす。 事業・制度は構築されているものの、量の見込み及び確保の内容とはかけ離れた実績数であり、利用促進のための工夫が必要と思われるため、評価は妥当と考えます。 園を通じて案内を配布ではなく、児童手当の通知の書類に同封するなど、対象児童すべてに案内が届くようにするなど工夫していけるとよい。 市に直接申請すればいいのでは？他市のやり方を参考にして改善の必要があるため。 対象者が園に知られたくないという気持ちから申請していないなら、方法を検討して増やす余地がありそう。 <p>【C評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請者数が少ない。子育て家庭に関係の深いものであると考え、情報の周知徹底並びに確実な利用につながる手立ての検討が必要と考える。 目標とする利用者数と実数が大幅に乖離しており、過年度からの課題が改善されていません。対象者の申請数が過少となるボトルネックを明確にし、事業全体の見直しが必要と考えます。 対象者に対して申請者が少なすぎる。園に知られずに給付を受けられるようにするべきであると指摘されているにも関わらず、対応策を取っていないことが課題である。 事業の内容がよくわかりません。園を通じて配布ではなく、個別に配布したほうが良いと感じる。申請者が少なかった理由を調査されると良いのではないのでしょうか。 							

事業番号	事業名	自己評価	R4 評価案	委員評価内訳				
				A	B	C	D	他
6-(13)	多様な事業者の参入促進・能力活用事業	A	A	A 18	B 6	C 1	D	他
コメント	<p>【A評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども特別支援教育・保育経費が適切に活用されている。 ・特別な支援が必要な児童を受け入れることができているため。 ・2か所の園で受け入れが可能となり、1つの園で1人の児童を12か月受け入れることができたため。 ・当事者としてこちらの事業に期待している。少しずつ広がっていくと嬉しい。 ・特別な支援が必要な子どもたちのためにさらに充実した保育体制をよろしくお願いいたします。 ・成果あり。 ・現状の事業を引き続きお願いします。 ・確保の内容（目標）を満たす確保の実績があり、前年よりも大幅に利用が進んだため。 ・特別支援は大変重要な事業ですので、今後もニーズの把握に努め、広報活動等を強化することで、さらに市民への事業活動の認知を拡大していただきたいと思えます。 ・特別な支援が必要な子どもの受入れにはスタッフ数の確保は欠かせないので、費用の補助により良質な保育体制を整備できたことは評価します。 ・特別な支援が必要なお子さんは2人／月だけなのか疑問。 <p>【B評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針等では、特別な配慮を必要とする子どもは健康や発達面の課題があることはその一部であって、多様な子どもを指している。この点についての取り組みはどのように進んでいるのでしょうか。⇒資料1-2参照 ・医療研修が進み、特別に支援が必要なお子さんの診断が多くされるようになった気がします。なぜ、幼稚園、保育所、家庭保育室にはサポートはないのでしょうか。⇒資料1-2参照 ・支援が必要な子が保育園等に入るために公立と民間の差（条件）がある。 ・人員配置をしても、保育者の資質向上が欠かせない。人員配置への経費補助だけではなく、研修の充実等への関与あるいは経費補助の検討も必要ではなからうか。 ・特別な支援を受けるまでの手続きが大変である。また、今はグレーゾーンの子も多く、病院も混んでいるため、3歳児健診や市の発達相談などではっきりと相手の診断名を伝えてほしい。「様子をみましょう」は本当に困る。 ・私立設置者のこども園に対して加配職員の補助ですが、本当に加配職員の補助になっているかを調べる手段が必要だと感じます。これは社福も同様にすすめてほしいと考えます。 ・認定こども園をもっと増やすべきだと感じたため。 <p>【C評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園だけではなく、幼稚園で特別な支援が必要な子どもを受け入れることを推進する必要がある。職員の加配に加え、職員が特別な支援とそれを必要とする子どもの理解を深め、適切な教育・保育ができるように、市が後押しする必要がある。 							

≪支援事業≫評価・コメント一覧の質問に対する回答

※コメント欄に記入されていた質問に対する担当課の回答です。

事業番号	事業名	質問内容	回答	担当課
6- (1)	延長保育事業 (時間外保育事業)	確保の内容(目標)を達成したため。延長保育の時間が保育園や保育施設により異なっているが、それが保護者のニーズに込えているかどうかを進捗管理シートに記載をしてほしい。	保護者のニーズについては、第2期の計画策定時にアンケートを実施して、ニーズ調査をしておりますが、ニーズとして把握しているのは、延長保育を必要としている人数であり、その人数を「量の見込み」として記載をしておりますが、延長保育の時間のニーズについては、把握をしております。	保育課
6- (2)	放課後児童クラブ	民間事業所の参入等での対応を掲げているが、質向上についての取り組みはどのようになっているのだろうか。	施設及び運営の各要件について、「朝霞市放課後児童クラブの設備及び運営の基準を定める条例」に規定する基準を遵守することとしているほか、運営状況等について立入調査等により確認し、改善を要すると認められる事項がある場合は、改善の指導をしております。	保育課
6- (3)	子育て短期支援事業 (ショートステイ事業)	里親家庭が5世帯から9世帯に増えたため。9世帯と委託契約を締結し、実績が6世帯ということは、委託里親が足りなくて保護者のニーズに込えられなかったことはないのではないかと推測したため。保護者のニーズに込えているかどうかを進捗管理シートに記載をしてほしい。	ショートステイ事業の利用希望者の状況や希望を伺い、事業委託に適した里親とのマッチングについて配慮しております。 利用後、利用者や里親に状況を確認するなど、事後のフォローについても心がけております。 進捗管理シートへの記載につきましては、今後作成する際に記載してまいります。	こども未来課

<p>6 - (3)</p>	<p>子育て短期支援事業 (ショートステイ事業)</p>	<p>令和3年58人／年に対し、令和4年95人／年となっており、コロナ禍が次第に解消しつつある状況の中で、着実に事業は展開されている印象を受ける。また、延べ人数36人の具体的な内容が今ひとつ把握できないのだが、同じ里親宅に同じ利用者が複数回利用し、結果として95人の実績となるのだろうか。その点、確認できればと思う。なお、待機児童等の他市との比較はあるが、こうしたショートステイ事業の比較はあるのだろうか。</p>	<p>令和4年のショートステイ事業は、10家族、実児童数14人の利用で、延べ36人、95日の利用実績です。</p> <p>定期的なレスパイトを図るために繰り返し利用する家庭があるほか、突発的な事情により1回のみ利用となる家庭があります。</p> <p>繰り返し利用する家庭の場合、同じ里親に委託するなど利用者の負担軽減を図っております。</p> <p>他市の状況について、毎年児童相談所で開催される「里親委託等推進委員会」において情報交換しております。所沢児童相談所管内各市は児童養護施設への事業委託が中心で利用実績はほぼ無く、里親への事業委託については2年前から推進され始めたこともあり、利用実績は1人程度と伺っているため、朝霞市における取組は各市に参考とされております。</p> <p>(ショートステイ事業里親委託の状況については「令和3年度独立行政法人医療福祉機構社会福祉振興助成事業 里親による子育て短期支援事業に関する調査報告書」を御参照ください。)</p>	<p>こども未来課</p>
<p>6 - (4)</p>	<p>乳児家庭全戸訪問事業</p>	<p>全戸訪問を行っていることは評価できると思う。その中に、日本語が話せない外国の方に対して、同じようなケアが提供されているのかは不明なため、今後確認したい。</p>	<p>外国の方も含めて、同じように訪問や支援を行っております。母子手帳交付時に日本語の理解度等も確認しており、各家庭の状況に応じて、翻訳機の活用等も行っております。</p>	<p>健康づくり課</p>

6 - (5)	養育支援訪問事業及び 要保護児童支援事業	支援のニーズに対して支援が行われたと推測したため。子どもの養育に支援が必要な家庭の把握の方法としてどのようなことがあるのかを進捗管理シートに記載してほしい。	健康づくり課とこども未来課が毎月開催する「連絡会議」や児童相談業において、養育に支援を要する家庭の把握に努め、導入を検討しております。 進捗管理シートへの記載につきましては、今後作成する際に記載してまいります。	こども未来課
6 - (6)	地域子育て支援拠点 事業	<p>目標は9か所なのに8か所のままなのは足りている方という事でしょうか。それとも開設できる場所がないからなののでしょうか。ずっと9か所にしておくのはなぜなののでしょうか。目標は高めのほうが良いという事ですか。</p> <p>今後はお客様の新規開拓や、より多くの方への認知を各保育園がどう努力されているのかを伺ってみたいです。潤沢な補助金の中で役所頼りにならずに各施設がどう進めているのか？</p>	<p>令和2年3月の計画策定時においては9か所の子育て支援センターが存在していましたが、利用者の減少を理由に令和2年7月に1か所閉所いたしました。目標値は計画策定時に設定したものであり、事業計画にも記載していることから変更できません。次期計画において、目標値を変更いたします。</p> <p>各子育て支援センターでは、季節のイベントなどを企画・実施しているほか、毎月おたよりを発行するなどして事業の周知に努めております。</p>	保育課
6 - (7) - ①	一時預かり事業 (幼稚園)	確保の内容(実績)が利用者数よりも多いため、保護者のニーズにできていると推測できるため。預かり保育の時間が保護者のニーズにできているかどうかを進捗管理シートに記載してほしい。	保護者のニーズについて、直接市では確認していませんが、幼稚園と市で会議を開催し、預かり保育についての考え方や状況を共有・把握しているほか、預かり保育を充実させている幼稚園には補助金を交付するなど支援し、保護者のニーズに対応できるよう努めているところです。	保育課

6 - (7) - ②	一時預かり事業 (保育園等)	保育園に通わせていない子供も預けられる制度？	一時預かり事業は、保護者の労働や病気、リフレッシュ等により、家庭での保育が困難な場合に、一時的に児童を幼稚園や保育所等でお預かりする制度です。 公設公営保育園2園で行っている一時保育では、保育園等に入所していない児童が利用できます。	保育課
		もっとニーズがあると思うが、利用者が少ないため。制度がわかりにくいというのは、どういった点がわかりにくいのか、また、利用しにくい点は何かを進捗管理シートに記載してほしい。	公設公営保育園2園で行っている一時保育では、利用する理由により3種類があり、利用期間や受付期間、必要書類が異なっております。このことについて、窓口やお電話などで相談いただくことがあり、利用に慣れていない方から「わかりにくい」というお声をいただくこともございます。 今後も、ホームページや広報の掲載等により制度の周知に努めてまいります。	
6 - (11)	利用者支援事業	妊娠届出数に対し面談数はほぼ達成していますが、課題認識にある利便性の向上(北朝霞訪問の設置等)を早急にお示しいただきたいと思えます。	福祉等複合施設の建設における基本構想において、子育て世代包括支援センターの設置も検討しております。	健康づくり課
		事業の見込みがセンターの施設数になっているが、面談実施率を目標としたほうがよいと思う。「産後の新生児訪問」は、6(4)乳児家庭全戸訪問事業とどのように連携しているのかを進捗管理シートに記載してほしい。	事業見込については、経年で評価を行っているため、次期計画の際に目標を見直しを検討したいと考えております。 産後の新生児訪問は乳幼児全戸訪問の一部で、約束をして何う訪問を指します。	

6 - (13)	多様な事業者の参入 促進・能力活用事業	<p>保育所保育指針等では、特別な配慮を必要とする子どもは健康や発達面の課題があることはその一部であって、多様な子どもを指している。この点についての取り組みはどのように進んでいるのでしょうか。</p>	<p>現在、配慮を必要とする児童については、その児童の健やかな成長を図るため、加配職員に係る経費の一部を補助しております。</p> <p>また、職員においては研修を通して、知識習得や特性理解に努めております。</p>	保育課
		<p>医療研修が進み、特別に支援が必要なお子さんの診断が多くされるようになった気がします。なぜ、幼稚園、保育所、家庭保育室にはサポートはないのでしょうか。</p>	<p>本事業は、子ども子育て新制度が始まった平成27年度に、国においてこれまでの障害児に対する支援（私学助成、障害児保育事業）の対象とならない特別な支援が必要な子どもを認定こども園で受け入れる場合に、加配職員における経費を補助するものとしてできた事業です。</p> <p>本市における対象は、保育所型認定こども園に通所する1号認定を受けた配慮の必要な児童となります。保育所や家庭保育室に通所している配慮の必要な児童に対する支援も、これと同様に加配職員の経費を補助しております。</p>	

≪関連事業≫コメント一覧（事業担当課と評価は同じ）

事業番号	事業名	コメント
2	要保護児童対策地域協議会等を活用した児童相談事業	・事業の実施により得られた成果に「・・・＜犯行為相談・・・＞」とありますが、こういったことでしょうか。⇒資料2-3参照
3	児童虐待防止に関する意識の普及啓発	・事業の実施により得られた成果に「市民向けセミナーのYouTube配信」とありますが、どういう広報をしているのか、進捗シートに記載してください。⇒資料2-3参照
5	家庭児童相談事業	・推進に関する課題に、「児童自身が・・・広報啓発する」とありますが、具体的にどのようなことをするのか、進捗シートに記載してください。⇒資料2-3参照
9	民生委員・児童委員活動事業	・推進に関する課題に、前年と同じ課題が書かれていますが、何か別の取組みをする必要があるのではないかと思います。
10	いじめ防止に対する取組	・評価がBからAになりましたが、課題は解決されたのか、進捗シートに記載してください。 ⇒資料2-3参照 ・SNSでのいじめなど、どのように把握すべく対応されているのかが、報告からわからなかったなので、教えていただきたい。⇒資料2-3参照
11	施設における人権擁護等の体制整備	・評価がCからBになりましたが、課題は解決されたのか、進捗シートに記載してください。 ⇒資料2-3参照
54	外国人世帯の支援	・外国籍の親子を支援するために、市の施策だけではなく市民団体との協力も行う必要がある。子どもが親の通訳になるなど、ヤングケアラーとしての困難や課題があることも指摘されているにもかかわらず、令和5年度以降の具体的な取り組みとして「引き続き、全庁的な対応を行う」と具体策が示されていないことが課題である。 ・外国人の受ける支援は、日本語ができるかどうかによって差がでていいると思われる。現場で保護者と対応する職員が困ったときに気軽に通訳など同行できると良いと思う。
55	多文化共生推進事業	・多文化推進サポーターが活用できていないのではないかと共に、もっと広く募集して登録してもらえたらよいと思う。
58	都市公園、児童遊園地の充実	・ボール遊び禁止や、地域からの苦情により、子どもが遊べる場が減っているように思われる。もっと、子どもたちの希望もとり入れた公園づくりができればいいなと思う。

73	内職相談事業	・内職相談の実績が123人であるにもかかわらず、実績が96回であるのはどういったことでしょうか。⇒資料2-3参照
81	子育て電話相談	・SNSを通じて、相談事業を周知していくのはとても良い方法だと思う。悩んでいる親が孤立しないように頑張してほしいと思う。大切な事業だと思う。
88	各種予防接種の実施	・乳児健診の時期が過ぎて日本に入国した外国の方、お子さんに、今まで何の予防接種をうけていて、何が必要なのか、母子手帳の交付も含め、把握できるといいなと思う。
123	放課後児童クラブ事業	・入所保留児童解消のために策を講じる場合、<こどもまんなか社会>を考慮すると、一保育室の定員の拡大を図るよりも、小規模程度の保育室を増やす方が、きめの細かい育成支援が可能になると考えます。こうした視点も踏まえつつ、施策が展開できるとさらに良いと思います。
132	小学校と幼稚園・保育所の連携	・放課後児童クラブでは、特に特別な配慮が必要な新一年生入室児童の情報を得る機会が少ない状況です。そのため、「小学校入学に係る保幼少連絡会」に放課後児童クラブ事業者の参加が叶えば、入学前の支援状況をもとに、入学後の小学校と足並みの揃った支援方法の展開が期待できると考えます。

≪関連事業≫評価・コメント一覧（事業担当課と評価が異なる場合）

事業番号	事業名	担当課評価	委員評価	理由
3	児童虐待防止に関する意識の普及啓発	A	B	・子どもが自ら助けを求める窓口設置が不十分である。また、子どもへの虐待は家庭だけではなく、学校や子どもの通う施設などでも起きる可能性があり、そのような事案への対応が検討されていない。
6	子ども家庭総合支援拠点の整備	A	C	・特定妊婦や困難の大きい家庭を把握することはある程度できているが、その対応として相談が中心で、生活や生計の立て直し、子育てしながらの就業への支援など具体策が不十分である。また、困難が大きくなる前に相談支援につなげる体制ができていない。
10	いじめ防止に対する取組	A・B	C	・いじめの重大事案が発生している。子どもも、子どもに関わる大人も、いじめが人権侵害であると認識するための機会が必要である。基本的人権や子どもの権利に関する知識だけではなく、具体的な事例対応に関するディスカッションなどを通じて、人権擁護の考え方を身につける必要がある。
11	施設における人権擁護等の体制整備	B	C	・第三者評価の導入や苦情受付窓口を設置するだけではなく、実際にこれらの制度が機能していることが重要である。施設ごとの苦情受付窓口だけではなく、市が保育や福祉に関する苦情受付と解決に取り組む期間を設置する必要がある。
14	カウンセリングの実施	A	C	・カウンセリングを行った結果が検証されていない。不登校児童生徒の数は増加の一途をたどり、教員による児童生徒へのハラスメント的な指導を改善することができていない。児童生徒から受けた相談に対する支援策を講じて解決に向かうことができるようにする必要がある。
27	紙おむつ給付事業	A	C	・障害のある人や家族という、ものが言いにくい人が不利益を受ける変更であったにもかかわらず、その意見を聞く機会を持たなかったこと、制度の説明を十分にしなかったことが問題である。

32	障害児通所支援事業	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 療育の必要がある児童や障害のある児童生徒を児童発達支援施設や放課後デイサービスに通っている背景に、幼稚園・保育所・放課後児童クラブ等で合理的配慮とインクルーシブな保育ができていないことがあると考えられる。障害者プラン策定のアンケート・ヒアリング結果や、進行管理・評価における委員の個別意見に向き合い、子どもたちが一緒に育つ環境を作ることに取り組むべきである。
38	育成保育事業	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもや医療的ケア児の保育について、体制整備は行っているとしているが、実際には申請を断られるケースがある。また、保育審査会で集団保育が可能であると判断される必要があるとしており、保育を必要とする障害のある子どもの受入を行っていないケースがある。
39	育み支援バーチャル支援センター事業（発達障害児者支援体制）	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉サービスにおける保育所等訪問支援事業の利用が伸びている現在、巡回相談の役割分担を考える必要がある。外部専門家の助言を保育者や教員の日常のかかわりに活かすことが十分とは言えない。
43	ひとり親家庭等医療費の助成	A	C	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親の収入や生活状況を裏付ける書類等を確認することなく、児童扶養手当の支給停止と返還を迫った事案があった。その事案をふまえての事務マニュアル改善や職員の人権教育が不十分である。ひとり親に対する偏見や差別を払拭することが必要である。
56	日本語指導支援員の配置	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 日本語指導支援員が有償ボランティアとしての報酬のみで、雇用されていないことは問題である。また、必要な人材や支援回数を確保するための十分な予算をつけることができていない。
91	妊娠期からの包括的な子育て支援	A	C	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センターが1か所しかないことよりも、支援プランを作成しても実効性がないこと、困難がそれほど大きくない家庭にまで支援を広げられていないこと、生後4か月までに1回の訪問のみで、継続的な産前産後の居場所や家事育児支援ができていないことなど、不十分なケアしかできていないことが問題である。

131	保育士等人材確保事業	A	C	<p>・保育士が確保できず、派遣保育士に頼っている現状である。賃金だけではなく、職場環境の改善、仕事上の困難に対する相談やサポートなどを行うことで、働きやすく、働き続けられる職場にしていくことが必要である。</p>
-----	------------	---	---	---

≪関連事業≫コメント一覧の質問に対する回答

※コメント欄に記入されていた質問に対する担当課の回答です。

事業番号	事業名	質問内容	回答	担当課
2	要保護児童対策地域協議会等を活用した児童相談事業	事業の実施により得られた成果に「・・・ぐ犯行為相談・・・」とありますが、どういったことでしょうか。	「ぐ犯」とは「刑罰法令には該当しないが、その性格または環境に照らして、将来罪を犯し、または刑罰法令に触れる行為をする恐れのある少年」と、少年法第3条で定められております。 「ぐ犯行為相談」は、保護者等や関係機関から、非行等により「ぐ犯」の傾向にある子どもを把握した場合などに選択する統計上の項目です。	こども未来課
3	児童虐待防止に関する意識の普及啓発	事業の実施により得られた成果に「市民向けセミナーのYouTube配信」とありますが、どういう広報をしているのか、進捗シートに記載してください。	市民向けセミナーの広報について、市のSNS、市民配信メール、ホームページ、広報あさかへの掲載、関係機関へのチラシ配置及び掲示依頼などにより広報しております。 進捗管理シートへの記載につきましては、今後作成する際に記載してまいります。	こども未来課
5	家庭児童相談事業	推進に関する課題に、「児童自身が・・・広報啓発する」とありますが、具体的にどのようなことをするのか、進捗シートに記載してください。	広報あさかへの掲載のほか、ホームページでの周知をしているほか、児童相談業務の中で直接子どもたちへの案内を行っております。 進捗管理シートへの記載につきましては、今後作成する際に記載してまいります。	こども未来課

10	いじめ防止に対する取組	評価がBからAになりましたが、課題は解決されたのか、進捗シートに記載してください。	令和3年度と令和4年度を比較し、学校との連携がより図れていることを評価して自己評価ランクの修正を行いました。(通告経路別件数において、学校からの通告件数：令和3年度88件、令和4年度109件)進捗管理シートへの記載につきましては、今後作成する際に記載してまいります。	こども未来課
		SNSでのいじめなど、どのように把握すべく対応されているのかが、報告からわからなかったので、教えていただきたい。	生徒や保護者からの相談や情報提供によって把握しておりますが、未然防止の取組として情報モラル教育を教育課程に位置付け、児童生徒の発達の段階に応じてメディアリテラシーの育成・いじめの未然防止に努めております。	教育指導課
11	施設における人権擁護等の体制整備	評価がCからBになりましたが、課題は解決されたのか、進捗シートに記載してください。	苦情等の受付窓口などの状況について、実地指導等により確認していることから、評価をBとしております。 今後も実地指導等の機会を通じて、第三者委員の設置等を含め、施設に確認を行ってまいります。	保育課
73	内職相談事業	内職相談の実績が123人であるにもかかわらず、実績が96回であるのはどういったことでしょうか。	活動指標の実施回数は実施日数を指しており、成果指標の実績は相談人数であるため、1回の相談で複数の方が相談をご利用されることなどから差が出るものです。	産業振興課

令和6年2月7日

公立保育園 保護者の皆様へ

朝霞市こども・健康部長

公立保育園給食費の見直しと保護者負担軽減について

平素より、本市の保育園運営にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、昨今の物価高騰により、保育園給食で使用する食材が高騰していることから、子ども・子育て会議や保護者アンケートなどにより給食費の在り方を検討し、この度、給食の質を維持するため、令和6年4月から公立保育園給食費の見直しをすることになりました。

なお、物価高騰と社会情勢を鑑み、保護者の負担軽減策として、令和6年度は今回の見直し分を市が負担し、保護者から徴収する給食費は変更しない予算案を市議会に提案しています。

今後も、安心して安全で、栄養バランスのとれた保育園給食の提供に努めてまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

公立保育園給食費の見直し内容

※見直し時期 令和6年4月から

- 保育園給食費（3～5歳児保護者負担額）

現行の月額：5,200円



見直し後の月額：5,400円（200円値上げ）

※今回、0～2歳児の保育料の見直しは行いません。

- 給食1食当たりの単価

現行：260円



見直し後：270円（10円値上げ）

保護者の負担軽減策

保育園給食費は見直しを行いますが、保護者の負担軽減策として令和6年度の1年間は、見直し分（月額200円）を市が負担し、徴収額は従来の月額5,200円のままとする予算案を市議会に提案しています。

詳しくは朝霞市ホームページをご覧ください。



給食費の納付が困難な世帯への支援

経済的な理由等により納付が困難な場合には、給食費等の一部免除を行う制度があります。ご不明な点がございましたら保育課までご相談ください。

担当：朝霞市こども・健康部保育課 保育総務係
電話048-463-2939

令和 7 年度 開所施設 概要

① 朝霞幼稚園の幼稚園型認定こども園移行

朝霞幼稚園は現園舎を建て替え、令和 7 年 4 月に幼稚園型認定こども園として、開園予定です。

また、幼稚園型認定こども園に移行することにより、従来からの教育認定（1号）の児童の預かりに加え、保育認定（2、3号）の児童の預かりが新たに開始されます。

1. 運営主体 学校法人 南武学園
2. 理事長 小寺 洋安
3. 地名地番 朝霞市幸町 3 丁目 5 番 1 6 号
4. 施設形態 幼稚園型認定こども園
5. 認定定員 2 3 7 名（予定）

	0 歳児	1 歳児	満 3 歳児 / 2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
1 号			3 0 名	4 5 名	4 5 名	4 5 名	1 6 5 名
2, 3 号	—	1 2 名	1 5 名	1 5 名	1 5 名	1 5 名	7 2 名

【参考】 現在の定員数：3 1 5 名

認可保育園の配置基準改善について

○国の配置基準

現基準

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
職員 配置基準	3 : 1	6 : 1	6 : 1	20 : 1	30 : 1	30 : 1

新基準（令和6年4月1日～）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
職員 配置基準	3 : 1	6 : 1	6 : 1	15 : 1	25 : 1	25 : 1

○市の配置基準（朝霞市保育園等運営基準）

現基準

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
職員 配置基準	3 : 1	4 : 1	6 : 1	17 : 1	25 : 1	27 : 1

新基準（令和6年4月1日～）

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
職員 配置基準	3 : 1	4 : 1	6 : 1	15 : 1	25 : 1	25 : 1

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

1 調査の目的

本来大人が担うと想定される家事や家族のケアなどを日常的に行っている子ども「ヤングケアラー」の状況を把握し、保護者や子どもだけで困難を抱え込まずにすむよう、本市における支援のあり方を検討するとともに、第3期子ども・子育て支援事業計画策定の参考に

する。

2 調査の対象

市内公立小学校5年生から6年生(2, 500人)、市内公立中学校1年生から3年生(3, 325人)合計5, 825人(生徒数は令和5年5月1日現在の人数、調査期間中登校していない生徒は対象外)

3 調査の方法

各小中学校を通じて、児童・生徒宛に調査依頼文、保護者宛に調査実施案内を配布。児童・生徒本人がタブレット端末等で回答。

4 調査期間

令和5年11月6日(月)から令和5年11月30日(木)

5 回収状況

調査の対象者	対象者数	有効回収数	有効回収率
小学校5年生	1,273人	699件	54.9%
6年生	1,227人	621件	50.6%
中学校1年生	1,133人	271件	23.9%
2年生	1,088人	270件	24.8%
3年生	1,104人	356件	32.2%
全体	5,825人	2,217件	38.1%

6 アンケート取りまとめ作業の状況

こども未来課、教育指導課、小中学校教員代表者が、報告書作成作業中。

令和6年2月中に関係機関と共有し、ホームページ等で公表する予定。

【参考】家族のお世話をしている子どもの割合は、小学生が9.1%(約1,320人中120人)、中学生が4.5%(約897人中40人)。

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

【アンケート調査票】

ヤングケアラーとは、大人がするような家事や家族の世話などを行っている18歳未満の子どものことです。

このアンケート調査での家事や家族の世話は、家庭での「お手伝い」とは違い、重い負担があるもののことを言います。

次の例を参考にしてお答えください。

【ヤングケアラーの例】

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことを言います。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問1 あなたの学年を教えてください。（あてはまるもの1つにチェック。）

- 小学校5年生
- 小学校6年生
- 中学校1年生
- 中学校2年生
- 中学校3年生

問2 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つにチェック。）

- 男
- 女
- 答えたくない

問3 あなたの健康状態を教えてください。（あてはまるもの1つにチェック。）

- よい
- まあよい
- ふつう
- あまりよくない
- よくない

問4 あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。（あてはまるもの全てにチェック。）

- 父親
- 母親
- 祖父
- 祖母
- 兄
- 姉
- 弟
- 妹
- その他（ ）

問5 問4で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問6 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を、このアンケート調査をする前に聞いたことがありましたか。（あてはまるもの1つにチェック。）

聞いたことがあり、内容も知っていた（問7へ）

聞いたことはあるが、内容は知らなかった（問7へ）

聞いたことはなかった（問9へ）

問7 （問6で「聞いたことがあり、内容も知っていた」「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と答えた人にお聞きします。）

ヤングケアラーという言葉はどこで知りましたか。（あてはまるもの全てにチェック。）

テレビ

雑誌、本

YouTube、SNS、インターネット

広報、チラシ、掲示物

学校

友人、知人から聞いた

その他（ ）

問8 問7で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

問9 家族のなかに、あなたがお世話をしている人はいますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

ここでの「お世話」とは、大人がするような家事や家族の世話などのことです。

家庭での「お手伝い」とは違い、重い負担があるもののことを言います。表紙の

【ヤングケアラーの例】を参考にしてください。

いる（問10へ）

いない（問29へ）

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問10 あなたは誰のお世話をしていますか。（あてはまるもの全てにチェック。）

父親

母親

祖父

祖母

兄

姉

弟

妹

その他（ ）

問11 問10で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

問12 あなたが家族のお世話をしている内容を教えてください。（あてはまるもの全てにチェック。）

家事（食事の準備や掃除、洗濯）

兄弟姉妹のお世話や送り迎え

入浴やトイレのお世話

1人で外出できない家族の付き添い（通院や買い物など）

感情面のサポート（ぐちを聞く、話し相手になる）

心配で目を離せない家族の見守り

通訳

大人の代わりにお金の管理（銀行からお金を引き出す、支払いをするなど）

薬の管理

その他（ ）

問13 問12で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問14 あなたは家族のお世話をいつからしていますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

小学校入学前

7歳（小学1年）

8歳（小学2年）

9歳（小学3年）

10歳（小学4年）

11歳（小学5年）

12歳（小学6年）

13歳（中学1年）

14歳（中学2年）

15歳（中学3年）

問15 あなたが家族のお世話をしているのはどれくらいですか。（あてはまるもの1つにチェック。）

ほぼ毎日

週に3～5日

週に1～2日

1カ月に数日

問16 あなたは1日何時間くらい家族のお世話をしていますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

※日によって異なる場合は、この1か月で最も長かった日の時間を教えてください。

1時間くらい

2時間くらい

3時間くらい

4時間くらい

4時間以上

問17 家族のお世話をしているために、あなたがやりたくてもできないことはありますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

ある（問18へ）

ない（問20へ）

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問18 （問17で「ある」と答えた人にお聞きします。）あなたができないことは、どのようなことですか。（あてはまるもの全てにチェック。）

学校に行きたくても行けない

どうしても学校を遅刻・早退してしまう

宿題や勉強をする時間がとれない

眠る時間がたりない

友達と遊ぶことができない

クラブ活動・部活や習い事ができない

将来の進路（中学校や高校のこと）が考えられない

自分だけの時間がとれない

その他（ ）

問19 問18で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

問20 あなたは家族をお世話することに、大変さを感じていますか。（あてはまるもの全てにチェック。）

体が疲れて大変

心が疲れて大変

時間がなくて大変

誰も助けてくれなくて大変

大変ではない

問21 あなたはお世話をしている家族のことや悩みなどを、誰かに相談したことがありますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

ある（問22へ）

ない（問24へ）

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問22 （問21で「ある」と答えた人にお聞きします。）誰に相談しましたか。

（あてはまるもの全てにチェック。）

家族（父親、母親、兄弟姉妹、祖父、祖母）

親せきの人（おじ、おば）

学校の先生（保健室の先生以外）

保健室の先生

学校の相談員（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー）

病院の先生や看護師

福祉サービスの人（ヘルパー、ケアマネージャー）

市役所や保健所の人

近所の人

友達

SNSの知り合い

その他（ ）

問23 問22で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

問24 （問21で「ない」と答えた人にお聞きします。）相談していない理由を教えてください。（あてはまるもの全てにチェック。）

誰に相談したらいいかわからない

家族のことなので話しにくい（家族のことを変に思われたくない）

相談したことが家族に知られたくない

相談しても何も変わらないと思う

相談するほどの悩みではないと思う

その他（ ）

問25 問24で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

「子どもの日常生活に関するアンケート調査（ヤングケアラー実態調査）」の状況

問26 学校の先生や周りの大人に助けてほしいこと、あったらいいなと思う支援はありますか。（あてはまるもの全てにチェック。）

- 自分の状況について話を聞いてほしい
- 家族のお世話について相談にのってほしい
- 家族の病気や障害について、わかりやすく説明してほしい
- 自分が行っているお世話の全てをかわってくれる人やサービスがほしい
- 自分が行っているお世話の一部をかわってくれる人やサービスがほしい
- 自由に使える時間がほしい
- 進路や就職など将来の相談にのってほしい
- 勉強など学習のサポートがほしい
- 家族がお金に困っているのを支援してほしい
- 分からない
- 特にない
- その他（ ）

問27 問26で「その他」を選択した方は、具体的な内容を教えてください。

問28 あなたは自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。（あてはまるもの1つにチェック。）

- あてはまる
- あてはまらない
- わからない

問29 このアンケート調査のほかに、あなたが困っていること、相談したいことはありますか。自由に記入してください。

「こどもミーティング」の実施について(報告)

●目的

第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画が令和6年度で終了することから、次期計画の策定にあたり、子育て支援に関する課題やニーズを把握することを目的に、児童館利用者に対してヒアリング調査を実施する。

●時期

令和5年12月下旬から令和6年1月中旬まで

●対象

市内の児童館を利用している小学生、中高生及び保護者

●調査結果

【概要】

実施場所	日にち	時間	対象	人数
ねぎしだい児童館	12月22日(金)	14時30分から	小学生	19人
みぞぬま児童館	1月9日(火)	14時30分から		21人
ひざおり児童館	1月10日(水)	15時から		12人
きたはら児童館	1月13日(土)	11時から	保護者	6人
はまさき児童館		14時から		9人
ほんちょう児童館		18時30分から	中高生	22人

【内訳】

○小学生 52人(※年長男児1人も参加)

1小	4年生(女子2)
2小	3年生(男子4、女子2)・4年生(男子1、女子3)
4小	2年生(女子2)・3年生(男子2、女子2)・4年生(女子2)・6年生(男子4)
6小	5年生(女子2)・6年生(男子4、女子4)
10小	2年生(男子1、女子4)・3年生(男子6、女子3)・5年生(男子3)

○保護者 15人

父親3人、母親12人

○中高生 22人

中学生	1年生(男子1)・2年生(男子5、女子4)・3年生(女子2)
高校生	1年生(男子4)、2年生(男子4)
大学生	1年生(男子2) ※児童館 OB で、現在ほんちょう児童館でアルバイト

【意見等】※一部抜粋

○小学生

○児童館のどのようなところが好きですか。特に気に入っているところを教えてください。

- ・色々な遊びができるところ(粘土遊び、球技、ゲームロボ、オセロ、トランプ等)
- ・児童館によって特色が異なるところ
- ・本がたくさんあったり、季節に合った装飾があったりするから好き
- ・いつも来ているから落ち着く
- ・通いやすい、利用しやすい(アクセスが良い)
- ・同じ小学校や違う小学校の友達と遊戯室でドッジボールができる
- ・友達と待ち合わせの場所にもよく使っている
- ・漫画や塗り絵、ピアノ等、一人でも過ごしやすい
- ・いつでも遊びに来れる(月～土曜日まで、雨の日でも)
- ・おもちゃがたくさんあって選べないから困る
- ・常連になると職員さんと友達になれる、一緒に遊べる、優しい
- ・トイレが綺麗
- ・安心して遊べる
- ・和光の児童館と比較すると和光の方が大きい、おもちゃは朝霞の方が種類が多い
- ・宿題ができる、漫画を読んだり、おやつを食べたり、工作、クッキングができる

○児童館のもっと良くなると良いところはどのようなところですか。

- ・野球やサッカー等、ボール遊びができるような場所(広場)がほしい(多数)
- ・高学年は携帯を触ってもよいことにしてほしい
- ・朝7時から利用できるようになってほしい
- ・幼児も一緒にスペースで遊ぶので危なく、小学生専用のスペースが欲しい
- ・高学年でも楽しめるようにしてほしい
- ・ピアノとか音楽スタジオも欲しい
- ・卓球や野球、トランポリン等できるスポーツや遊びを増やしてほしい(多数)
- ・ゲームで遊んだり、テレビやYouTube 等が見れたりできるようにしてほしい
- ・工作活動ができる場所、射的等お祭りでやっているような遊びをやりたい
- ・季節ごとのイベントをもっと増やしてほしい
- ・Wi-Fi がつながるといい
- ・おもちゃが壊れていたり、なかったり、足りなかったりする

○朝霞市はこどもにとって生活しやすいところですか。

- ・朝霞市は生活しやすい(多数)

○市外の友達などに自慢したいところはどのようなところですか。

- ・きゅうり等の野菜がおいしい、特産物のニンジンがおいしい
- ・自然や公園がたくさんある
- ・都会すぎず、田舎すぎないところが良い、交通が便利
- ・キャラクターのぼぼたんが可愛い

- ・朝霞市役所に鯉がいること
- ・東京に近くて、遊びに行きやすい
- ・公園や児童館が多いので、子どもにやさしい
- ・駄菓子屋さんがある、テレビも取材に来たことがある
- ・市役所前のイルミネーションがきれい
- ・スーパーが多い
- ・平和、災害、事故、事件が少ない
- ・彩夏祭や季節ごとのイベントがたくさんある
- ・学校の縦割りで他の学年の子と仲良くなれる
- ・朝霞の森で色々できる(自転車の練習など)

○朝霞市のもっと良くなるとよいところはどのようなところですか。

- ・温泉や遊園地などの観光スポットのような場所でできれば、もっと楽しいと思う
- ・野球やサッカー等、ボール遊びができるような場所がほしい
- ・友達がたくさんできるように、人口を増やしてほしい
- ・けんかのない、豊かなまちにしてほしい
- ・市役所の池が水族館みたいになると良い、市役所内に休憩スポットができれば疲れている人が休める
- ・道路を整備してほしい(多数)、道を広くしてほしい、街灯が少ない
- ・歩行者用信号の青の時間を長くしてほしい(特に小学校近くの信号機)
- ・ごみを捨てないでほしい、道をきれいにしてほしい、たばこ等がよく落ちている(道路を自動で掃除するロボットがあるといいのではないか)
- ・交番が少ない、交番があると道を聞けたり、見守ってもらえたりして安心する
- ・坂が多い(自転車や車のスピードが出て怖い)
- ・公園の遊具や木を増やしてほしい
- ・保育園を増やしてほしい
- ・地震に強い建物を建ててほしい
- ・他の人にお勧めできる場所があまりない
- ・朝霞の森にトイレがない、青葉台公園のトイレが汚い

○朝霞市にずっと住んでいたいと思いますか。

- ・ずっと住みたい(多数)
- ・大人になったら、もっと自然豊かな場所に住んでみたい
- ・いろんな環境を経験したいので朝霞市以外の場所にも住んでみたいが、結局朝霞市が一番住みやすくて戻ってくると思う
- ・他の市に住みたい
- ・(どうなったら住み続けたいかという問いに対して)都会っぽくしてほしい

○ふだんの生活で困っていることや、もっとこうなるとよいなあとと思うところはありますか。

- ・家の近所に小学校があまりなく通学時間が40分ほどかかるため、学校の数を増やしてほしい
- ・ボール遊びができるような公園がほしい

- ・公園の遊具が少ない、大きな遊具を設置してほしい
- ・バッティングセンターがない
- ・毎日宿題として自学が出るが、ネタに尽きてしまうので回数を減らしてほしい
- ・中学生しか使えないところが多い、せめて小学校高学年から使えるようにしてほしい
- ・朝霞市をもっと大きくしてほしい、志木市と朝霞市が合併してほしい
- ・遊べるところをもっと増やしてほしい、学校の遊具が少ない、学校の中でも体育館等遊べる場所を増やしてほしい
- ・こどもでも働けるようにしてほしい、欲しいものはお金を貯めてからと言われるが、お年玉くらいしかないので、児童館でこどもだけでお店ができるようにしてほしい、勉強したらお金がもらえるようにしてほしい
- ・もっと地産地消に取り組んでほしい
- ・市内の他の学校との交流をしたい
- ・学校の校外学習の機会を増やしてほしい
- ・Wi-Fi がつながるところを増やしてほしい

○保護者

○児童館をどの程度頻度で利用していますか。

- ・週 1 回(2)
- ・週 3 回程度(2)
- ・月 1～2回程度(4)
- ・月 2～3回程度
- ・2か月に 1 回(2)
- ・冬場は週 1 回
- ・年間10回程度
- ・時々
- ・初めて

○主な目的はどのようなことですか。

- ・天気の悪い日は暖かいため、公園だと寒いため
- ・子どもが安心して遊べる環境(空間)であるため
- ・ママ友との情報交換も
- ・子どもの遊び場(子どもにとって児童館に行くことが習慣化している、子どもが児童館に行きたいと言う)
- ・イベントに時々参加

○お子さんと一緒に過ごす場所として、他にどのようなところに行きますか。

- ・公園(北割公園・南割公園・北朝霞公園・城山公園・朝霞の森・秋ヶ瀬公園など)
- ・ショッピングセンター
- ・おもちゃ図書館なかよしぱあく
- ・図書館、産業文化センター、博物館、コミュニティセンター

○どのようなところが気に入っていますか。

(児童館)

- ・綺麗で遊ばせやすい、死角がない
- ・なんとなく過ごしやすい
- ・職員が優しい

(公園)

- ・砂場あそびができるところ
- ・朝霞の森ではサッカーや凧あげができる

○どのようなところがあるとよいと思いますか。

(児童館)

- ・おもちゃや本の貸し出しとかがあると嬉しい
- ・おもちゃのある施設がもっとほしい
- ・児童館も寒い日は混雑してしまうので、スペースか施設数をもっと増やしてほしい
- ・本を増やしてほしい、CD・DVD の種類も少ないので、子ども向けの DVD を増やしてほしい

(その他施設)

- ・子どもと過ごす場所がないのもっと増やしてほしい
- ・公園のトイレをもっと綺麗にしてほしい、臭いが気になる
- ・駐車場を充実させてほしい、青葉台公園に行きたいが朝早く行かないと駐車場が空いていない
- ・小さい子が乗れるブランコがあったら良い
- ・公園に複合遊具があったら良い
- ・朝霞の森に食事用のベンチセットがほしい
- ・公園がもう少しあるといいなと感じる
- ・自転車の貸し出しがあると良い(森林公園のように親子で自転車に乗れる)

○朝霞市は子育てしやすいところですか。特に良いところはどのようなことですか。

- ・子育てしやすい(多数)
- ・比較的しやすい
- ・同世代のママが多く、交流しやすい
- ・同年代の子どもが多い、子育て世帯が多く引っ越してきている印象がある
- ・児童館や公園が多い
- ・坂が少なく、ベビーカーでの移動がしやすい(北朝霞方面)
- ・子育てしやすいとは思わない、ただ朝霞市で子育てをしたいと思う
- ・以前は東京都に住んでいて商業施設や水族館などは東京の方が充実しているものの、朝霞市の方が家の広さなどを考えると住みやすい
- ・駅前にお店が多いのもポイント
- ・様々なことをやってくれている印象がある

○もっと良くなると良いところ(変えてほしいところ)はどのようなところですか。

- ・保育園に入れたい、本当に困っている
- ・学童が少ない、9小の周りは特に学童が少ないと感じる
- ・朝霞台駅に階段が多い、また線路を越えて反対側に行きにくい
- ・公園の遊具をもっと充実してほしい
- ・おもちゃ(子育て用品)を買えるようなお店が少ない
- ・保育園が局所的に不足、行きたい保育園に行けない
- ・仕事が休みの日も子どもを預けられるようにしてほしい、仕事が休みの日に 2～3 時間だけでも預けられたら、自分の時間が取れて、子育てがしやすくなる
- ・民間のベビーシッターサービスもあるが、お金がかかってしまうので難しい
- ・幼児教室や習い事に通わせる方法もあるが、お金がかかってしまうので難しい
- ・将来、学童保育に入れられるかが心配、東京であればいろいろな学童の種類があり選べるのが良い、宿題や勉強面もフォローしてくれるような学童に入れたい
- ・土日は外食がメインなので、子連れで利用できる外食スポットが増えてほしい
- ・大きいアスレチックがあると良い

<ul style="list-style-type: none"> ・歩道が狭い、車を運転していて危ないと思うことが多い ・ファミリー・サポート・センターの登録はしたが、利用までの流れが煩雑で利用できていない、特に事前面談が必要なことや前々日・前日予約ができないことが利用しづらい、ベビーシッターサービスのように特急料金がかかってもいいので、前々日・前日予約対応をしてほしい ・田島地区にも児童館がほしい ・学校が長期休みの時の子どものいる場所が欲しい(放課後児童クラブ保留になった場合)
○ずっと朝霞市内で子育てをしていきたいと思いませんか。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園に入れば今後も朝霞市で子育てをしたいと思う ・ずっと朝霞市で子育てをしたいと思っている(多数) ・家を買ったのでずっと住む予定だが、引っ越せるなら和光市の方が理想的、朝霞市よりも便利で小学校でも勉強に遅れがある場合補習でフォローしてくれると聞いた
○児童館で子育てに関する相談をすることはありますか。どのような相談をされますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用したことはなく、現状、利用しようともあまり思っていない ・基本的に相談はしない、わからないことがあればインターネットで調べて自己解決する ・共働きだが、在宅メインなので特に困っていることはなく、相談はしない ・児童館で相談したことがない ・幼稚園のナーサリークラス(週1回)で相談をしている
○他にも子育てや家庭のことを相談できる窓口がありますが、ご存じですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターの窓口でよく相談させてもらっていた(成長の変化や離乳食の進め方など) ・支援センターや放課後児童クラブで発達の相談をしたことはある ・特に知らない
○利用しやすくなるにはどのようなことが必要だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・相談したいとは思わないが、こういったヒアリング活動は3か月に1回程度実施してほしい、そして子ども施策の進捗について市の広報誌などで紹介してほしい、ホームページよりも市の広報誌の方が満遍なく情報が得られるので分かりやすい ・LINE やチャット等であれば相談しやすそう ・年齢に合わせた相談窓口があるのかどうか知りたい ・気軽に相談できる場所があると良い
○朝霞市の子育て支援に関して、困っていることや感じていること、希望がありましたら教えてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園に入れるようにしてほしい、定員を増やしてほしい(下の子は保育園に入ることができず、母親が仕事を辞めることになった) ・朝霞台駅の階段をなんとかしてほしい、エレベーターがほしい

- ・特になし、保育園申し込み時なども行政にはよくしてもらって感謝している
- ・一時保育(リフレッシュ)を利用しているが、具合が悪い時に預けられるところがない
- ・税金が高い割に、所得制限であらゆるサービスが受けられない、税金は仕方ないものの子育て支援サービスの対象にしてほしい
- ・ファミリー・サポート・センターを充実させてほしい、よく利用していたが空き枠がないことも多かった、登録人数が増えるともっと利用しやすい
- ・土日の過ごし方に悩むので、公園と設備一覧がわかるものがほしい
- ・駐車場の有無や混雑具合(台数)、遊具の種類、トイレの有無が写真とともにあると良い
- ・わくわくどーむでダンスやプール等、こども用レッスンをしているが、気づいたら申し込み期間が終わっている、ホームページ等も見づらい、子育て専用アプリ等で情報がまとまっていると助かる
- ・民間の習い事一覧なども知りたい、どんな習い事が今あるのかわからない
- ・朝霞市は転入者が多いと思うが、どこに何があるかがわからないことが多い、母子手帳交付時や出産時などに子育て関連の情報が取りまとまったものがほしい、病院リストはあるが実際に子育てをしていてどういった施設があるのか等がわからなくて困る(子連れで出かけられるスポット、施設・サービスの口コミなど)、子育てし終わった母親の声が反映された子育て支援ガイドブック等があるといいのではないか
- ・はまさき児童館は雰囲気は本当によいが、カフェとかのスペースがより充実しているとありがたいなど感じる、周りにコンビニなどもないので
- ・医療も手厚く、本当に助かっている
- ・ひとり親の支援をもっとしてほしい
- ・道が狭い、ミラーが少ない
- ・お金に関する授業(勉強)を学校でやってほしい(海外では学校でお金の授業をやっている)
- ・タブレットがうまく活用できていない、オンライン授業の活用が足りない
- ・保育園や放課後児童クラブについて、ステーション制(拠点に預けた後、各園やクラブへ送迎する)の活用を検討してほしい(居住場所等に係わらず、空きがある園やクラブを利用することができる)
- ・小学校で発達の子のクラス(授業)がないことがあり、週に1~2時間だけ他の学校に行かないといけないことがある、1~2時間ではなく行くなら1日単位にしてほしい

○中高生

○児童館のどのようなところが好きですか。特に気に入っているところを教えてください。

- ・友達と遊んだり、職員と交流できたりするところ、相談にも乗ってくれるので過ごしやすい
- ・職員・館長が優しい、面白い、頼りになる、過ごしやすい
- ・イベントが多くある
- ・利用できる時間が長い
- ・音楽もできたりする
- ・Wi-Fi を使うことができる
- ・第2の家のように
- ・年齢が高くても遊びに来れる雰囲気がある
- ・いちいち入館証を見せずに使えるところがいい
- ・トイレがきれい
- ・お菓子や食事をもらえることがあるので嬉しい

○児童館のもっと良くなると良いところはどのようなところですか。

- ・今の児童館が過ごしやすいので、変わってほしいところはない
- ・児童館でダーツ、ビリヤード、バスケット(ボール遊び)麻雀ができると良い
- ・20時まで開いている児童館をもっと増やしてほしい
- ・児童館の職員をある程度固定してほしい
- ・食べ物自動販売機があるといい
- ・小学生が使える部屋と中高生が使える部屋を分けた方がお互い安心できると思う
- ・トレーニングスペースがほしい
- ・サンドバックやミットなどがあれば壁を壊さなくて済む

○朝霞市はこどもにとって生活しやすいところですか。

- ・生活しやすいとも、しにくいとも言えない
- ・生活しやすいと感じる
- ・電車の利便性が良いが、北朝霞駅前乗り換えのためだけの駅で遊ぶところが少ない
- ・学校がたくさんある
- ・朝霞の森など遊ぶところもたくさんある
- ・コンビニなど多いが、静かで住みやすい
- ・競技場の無料開放はありがたい

○市外の友達などに自慢したいところはどのようなところですか。

- ・コンビニがたくさんある、電車が多くアクセスが良い
- ・ラウンドワンがあることは自慢できるが、お金がかかって遊べない
- ・街が静かなところがいい
- ・彩夏祭や花火は自慢できる

○朝霞市のもっと良くなるとよいところはどのようなところですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・街灯がほしい、夜の道が危ない、歩道が狭い、歩行者専用・自転車専用の通路を整備してほしい ・終バスの時間が早い ・フリーWi-Fiの充実 ・信号が長いところがある ・駅前の駐輪場が狭いと感じる ・ボールで遊べる施設が少ない ・映画館などの商業施設がない ・小学生までは優待されているが、中学生が遊べる場所が少ない ・坂が多い
○朝霞市にずっと住んでいたいと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・大人になったら別のところに住みたい ・住むのは朝霞市でもいいが、高校や就職先は朝霞市以外で考えている ・思う
○ふだんの生活で困っていることや、もっとこうなるとよいなあとと思うところがありますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・体育館と公園の間のような、気軽に運動できる場所がほしい

朝霞市子ども・子育て会議 委員名簿【令和6年2月13日現在】

(任期：令和5年7月6日～令和7年3月31日)

定数25人以内

区分	選出団体等	氏名
第1号 知識経験を有するもの 【4名】	① 東洋大学	嶋崎 博嗣
	② 十文字学園女子大学	鈴木 晴子
	③ 公益財団法人21世紀職業財団	山谷 真名
	④ 小中学校校長会	小林 美加
第2号 保護者 【5名】	⑤ 公営保育園保護者	新井 智美
	⑥ 民営保育園保護者	田島 由華
	⑦ 幼稚園保護者	鈴木 厚子
	⑧ 朝霞市保護者代表連絡会	菅原 慎也
	⑨ 朝霞市放課後児童クラブ連絡協議会	坂本 彩香
第3号 子ども・子育て支援に 関する事業に従事するもの 【4名】	⑩ 朝霞市社会福祉法人民間保育園連絡協議会	金子 雅美
	⑪ 東上地区私立幼稚園協会朝霞支部	佐藤 順與
	⑫ 社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会	川合 義和
	⑬ 朝霞地区福祉みつばすみれ学園	岡部 利枝
第4号 公募による市民 【2名】	⑭ 公募市民（審議会等公募委員候補者名簿）	神部 陽一
	⑮ 公募市民（審議会等公募委員候補者名簿）	獅子倉 賢治
第5号 その他 【10名】	16 朝霞市議会議員	西 明
	⑰ 朝霞市民生委員児童委員協議会（主任児童委員）	宮永 純子
	⑱ 連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	藤田 勇
	⑲ NPO法人なかよしねっと	安孫子 陽子
	⑳ 子育て関連団体【子どもの遊び】 (朝霞市子ども会連合会)	渡邊 俊夫
	㉑ 子育て関連団体【青少年健全育成】 (朝霞市青少年育成市民会議)	金子 和人
	㉒ 子育て関連団体【児童養護】 (朝霞地区里親会)	江川 千佳子
	㉓ 子育て関連団体【地域子育て】 (あさか子育てネットワーク：多文化子育ての会ばんびーに)	喜多 陽子
24 子育て関連団体【子どもの居場所・貧困対策】 (子どもの居場所ネット：あさかみらいこども食堂)	吉村 智代	
25 子育て関連団体【児童館利用・多胎児サークル】 (児童館利用団体：にこにこサークル)	鶴田 美樹	

★数字の○印ありは継続、なしは新規

朝霞市子ども・子育て会議委員 部会名簿

(任期：令和5年7月6日～令和7年3月31日)

令和6年2月13日現在

部会	選出団体等	氏名	区分
保育園等運営検討部会 (6名)	十文字学園女子大学	鈴木 晴子	1号
	朝霞市小中学校校長会	小林 美加	1号
	朝霞市放課後児童クラブ連絡協議会	坂本 彩香	2号
	東上地区私立幼稚園協会朝霞支部	佐藤 順與	3号
	朝霞市民生委員・児童委員協議会	宮永 純子	5号
	朝霞市青少年育成市民会議	金子 和人	5号
保育園等利用者負担検討部会 (6名)	公益財団法人21世紀職業財団	山谷 真名	1号
	公営保育園保護者	新井 智美	2号
	朝霞市社会福祉法人民間保育園連絡協議会	金子 雅美	3号
	連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	藤田 勇	5号
	子ども会連合会	渡邊 俊夫	5号
	朝霞市地区里親会	江川 千佳子	5号
子ども・子育て支援事業計画部会 (13名)	学校法人東洋大学	嶋崎 博嗣	1号
	民営保育園保護者	田島 由華	2号
	幼稚園保護者	鈴木 厚子	2号
	朝霞市保護者代表連絡会	菅原 慎也	2号
	朝霞市社会福祉協議会	川合 義和	3号
	朝霞地区福祉会みつばすみれ学園	岡部 利枝	3号
	公募市民	神部 陽一	4号
	公募市民	獅子倉 賢治	4号
	朝霞市議会議員	西 明	5号
	NPO法人なかよしねっと	安孫子 陽子	5号
	あさか子育てネットワーク	喜多 陽子	5号
	子どもの居場所ネット	吉村 智代	5号
	児童館利用団体	鶴田 美樹	5号

計25名